



「なぜ学び、なぜ受験をするのか」 生徒と“本音”で向き合う個人塾



取締役教室長 小林 厚子

東京都出身。大学卒業後、教員採用試験に合格していたが、学習塾講師に大きな魅力を感じて同業界へ。結婚を機に下阪。大手学習塾をはじめ、第一線で活躍してきた経験を活かし、「黒船義塾」にて指導を開始する。現在は、同塾の教室長を務めている。

有限会社 灘教育研究所
個別指導 黒船義塾

〒 657-0855

兵庫県神戸市灘区摩耶海岸通 2-3-1 102

TEL 078-805-4311 / FAX 078-805-4312

URL <http://kurofunegijuku.com>

Company data



畑山 神戸市灘区・東灘区は老舗や大手学習塾が多いそうですが、その中で黒船義塾さんの特色は何ですか？

小林 当塾は、「思考力の養成」を土台にした個別指導を行っています。講師と生徒の距離が非常に近いので、家庭教師のように細やかな指導ができるのが特長です。各々の個性を把握し、それを踏まえた適切な指導・アドバイスをを行います。

畑山 個人塾の規模だからこその対応力ですね。しかし、最近は大手でも個別指導が流行っているようですが。

小林 そもそも大手と当塾とでは、生徒・保護者との接し方や指導方針に至るまで、全てが異なると言っても過言ではありません。テストの点やクラスのレベルを上げることに固執し過ぎ、肝心の結果を出す方法は“精神論”に頼るような塾や保護者が多いように感じます。ろくに戦い方も教えないで、ただ“勝ちなさい”と強いても、子どもは苦しまばかりです。

畑山 結果の前にプロセスが大事だと。

小林 はい。プロセスをきちんと踏めば結果は後からついてきます。“分からない”のは子どもが成長する大きなチャンス。安易に正解を教えず、苦手な分野でも逃げずに正面から取り組んでもらい、講師の目の前で問題を解かせます。もち

ろん、宿題もしっかり出しますよ。

畑山 土台が強固でなければ、せっかく勉強をしても積み重なっていかないわけですから、それは理に合っていますよね。

小林 おっしゃる通りです。それに、全力で勉強に向き合い、問題が解ける喜びを知れば、自分に自信がつくようになります。すると、地道な努力や緻密な学習計画といった「当たり前」のことを、「当たり前」にやるようになります。そうやって「当たり前」に志望校の合格を勝ち取った生徒を、何人も目の当たりにしてきました。だから、やる気がなかったり宿題をサボったりすれば、「当たり前」に厳しく接します。こちらが少しでも隙を見せると、堪え性のない子は「当たり前」に“楽をしよう”としますから（笑）。

畑山 体育会系のスタンスですね（笑）。ただ、受験を成功させるためには生徒の

熱意だけでなく、保護者の方の理解や協力も欠かせないものだと思います。

小林 いつの時代も、子どもは「親の期待に応えたい」一心で頑張るもの。一方で保護者の中には、「なぜ子どもに受験させるのか」という根本的な問いにすら答えられない方が増えてきました。合格は、お金で買えるものではありません。保護者の方には、「目先の受験だけでなく、子どもの将来も見据える」という私たちの想いを共有して頂きたいと思っています。

畑山 では最後に、塾としての今後の目標がありましたらお聞かせください。

小林 これからも塾としては、このスタンスを保ち続けていくつもりです。社会に出た卒業生たちが、“黒船義塾流”で身につけた思考力を発揮して、各方面で活躍してくれれば本望ですね。

Guest Comment

畑山 隆則（元ボクシング世界王者）

「子どもに対しても保護者に対しても、一切嘘はつきません」と語っておられた小林教室長。その真っ直ぐな姿勢と並々ならぬ熱意は、多くの人の受験に対する意識を改革していつくれるに違いないと感じました。今後も「黒船義塾流」を貫き、指導に励まれてください。

